

2015アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名〔海星学院高等学校〕 担当教諭名〔山根 洋・水島 猛・市川 栄作〕（2年 73名）

交流相手国[フィジー]

海外学校名[Jasper Williams High School] 担当教諭名[Watisoni Delana]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教 科	単 元 名	時間数
	総合的な学習の時間	国際理解	20

■ 作品について教えてください。

題（テーマ）	日本とフィジーの文化・食べ物・気候と私たちの住む地域について伝え合おう
絵に込めたメッセージ	交流の中で、それぞれの国や学校・文化について発表しあい、多面的に理解を深めることこそが、平和な社会の実現において重要であると分かち合った。この絵を見た人に、異文化との出会いと協同の喜びが伝わることを願い、作製した。




■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
・相手国及び自国の文化、言語に対する生徒の興味、関心が高まった。・英語を公用語とする相手との交流によって、生徒の国際交流に関する興味関心が高まった。・海外のユネスコスクールとの交流チャンネルが広がった。・壁画以外にもクリスマスカードやメッセージカードを作成するなどの作業を通じ、ユネスコの精神を培った。・強い達成感を味わい、生徒の自信につながった。	相手校とのファーストコンタクトは順調であった。しかし、本校のアメリカ修学旅行中・直後の本校側から積極的な情報発信はできず、相手校への返信が滞るなどがあった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
『遠い国の人へクリスマスカードを作ると親近感がわき、サイクロンのニュースに不安を覚えた』(生徒感想文より)にもあるとおり、生徒の世界観の変化・拡大及びユネスコの精神の高まりが見られた。アメリカ修学旅行と組み合わせることで、より効果的な指導が実現した。	アートマイルに取り組んで4年目であった。4年目の教員は、想定外の事態にもある程度、対応することができるようになった。また新たにこのプロジェクトに参加した教員が特に事務局より高い評価を頂き、自信を深める契機となった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活 動 内 容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月 ～ 10月	・プロジェクト概要説明 ・ワークショップ:フィジーについて ・活動内容発表 ・役割分担、班編成(地域紹介作成班、学校紹介作成班、英語翻訳班、写真撮影班、スカイプ班、クリスマスカード企画班、美術班)	・7月上旬に教員のメール交流開始 ・希望調査をもとに班編成、各班からリーダーが選出され、修学旅行(10月)後のスカイプを前提に、活動開始。	総合
テーマ学習	11月	調査に関する各班が活動開始 ・テーマについて検討開始	・各班、活発に活動した。 ・相手側の設備の都合でスカイプ交流ができないことが分かり、計画を修正。	総合
構図決定	11月	フォーラムをメインに交流。 ・11月中旬にデザインのラフスケッチをフォーラムにアップ。 ・11月下旬に日本側の学校紹介と動画をフォーラムにアップ	・スカイプ無しの初の交流となったが、事務局のアドバイスもあり、フォーラムの交流が例年以上に活発となった。このため、制作にスムーズに移行できた。	総合
壁画制作	12月 ～ 2月	・制作の様子をフォーラムにアップ。 無事完成。本校と相手校がともにキリスト教系であったので、クリスマスカードもアップし、送付する。	・全員でクリスマスカード作成に取り組んだため、学年の士気も向上し、美術班以外の生徒も制作に積極的に参加。	総合
鑑賞・振り返り	3月	・2月下旬に相手国がサイクロンに襲われ、「Pray for Fiji」(メッセージカード)PJが立ち上がる。 ・3月中旬に鑑賞会実施。	・2年生全体の面前で開封され、喜びと達成感を共有することができた。裏面にも温かいメッセージが多数あり、生徒は丹念に鑑賞した。	総合

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	各テーマについて調べ、日本文化についての理解を深めた。また、自校について資料にしっかりとまとめることができた。
異文化の理解	A	4	交流の振り返りにおいて、相手との「相違点」「共通点」の観点から整理し、多くの共通点に喜んだ。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	アメリカ修学旅行で培ったコミュニケーション能力をフォーラム上の写真・資料・文章で発揮することができた
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	4	限られた時間で、わかりやすく端的に物事を伝え、プロジェクトを進めることを意識し、相手の立場にたって準備することができた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	5	全員が自分の役割ばかりでなく、周囲のサポートを自然に行い、人間関係が深まった。
協働する力 (役割分担・協力)	A	4	学年団結の一助となり、協働する姿が頻繁に見られた。
学習を追究する意欲	B	4	プロジェクトの魅力が強い動機付けとなり、学習や活動全般に対して意欲的に取り組んだ。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	B	4	例年に比べ、壁画の区分が単純であったが、構図を練り、適正かつ丁寧に作業することができた。
作品を鑑賞する力	B	4	描き手の視点から、相手側の努力や気持ちを感じることができた。